お元気ですか！
志村 たかよし です

第８５６号　2017年9月17日

日本共産党中央区議団
中央区　築地 １－１－１
電　話 ３５４６-５５６３
ＦＡＸ ３５４６-９５７０

たたかいはまだつづく

豊洲移転には何の道理もない

都民ファースト、公明、自民の賛成で、豊洲移転の補正予算を可決

９月５日の都議会臨時会で、築地市場の豊洲移転を推進する補正予算（総額55億円）が、都民ファーストの会、公明党、自民党、民進党などの賛成で可決されました。

日本共産党、生活者ネット、維新の会は反対しました。

この補正予算は、土壌も地下水も環境基準以下にするという方針を撤回して、豊洲新市場への早期移転を進めるためのものです。

都議選で19人に躍進した日本共産党都議団は、反対の立場で奮闘し、豊洲移転に何の道理もないことを浮き彫りにさせました。

汲み上げた地下水を浄化する仮設の装置＝8/31

信用できない「追加対策」

補正予算には、専門家会議が提言した汚染の追加対策である「市場施設の地下空間の底面にコンクリートを敷設して換気する」「地下水管理システムの揚水井戸を増設する」「新市場の三つの街区を横断する道路の地下にある観測用マンホールを補修する」のほか、新市場のカーブミラー設置、築地市場の再開発の検討などが計上されています。

反対討論に立った日本共産党の、とや都議は、小池都知事が、都が移転の前提として、市場業者や都民に約束してきた土壌と地下水汚染を環境基準以下にする「無害化」の約束をほごにしたことを批判し、追加対策はいずれも「安全・安心」を保障できないことが明らかになったと強調しました。

小池知事が追加対策は「専門家会議の提言を踏まえた対策だ」と繰り返しましたが、とや都議は「専門家会議の提言にもとづいて８６０億円もかけて行った土壌汚染対策は失敗に終わった。その専門家会議の提言だから大丈夫だと言われても到底信用できない」と厳しく指摘しました。

合意なしの移転推進を批判

とや都議は、質疑を通して移転方針に市場業者の合意が得られていないことがはっきりしたとし「市場業者の合意なしに移転を進めることは許されない。豊洲新市場への移転は中止すべきだ」と主張しました。

都議選で大争点となった築地市場移転問題ですが、広く都民に開かれた形での徹底した議論は行われませんでした。

日本共産党都議団は、十分な審議時間を確保するとともに、予算特別委員会の設置をはじめ、知事との一問一答の審議、市場関係者などの参考人招致を求めてきましたが、実現しませんでした。

日本共産党は、引き続き、「食の安全・安心」を最優先にする立場から、豊洲新市場への移転を中止し、築地市場の現在地再整備を求め、力を尽くします。

全員協議会で 豊洲新市場を視察（２）

― 空調設備など維持管理にかかる経費は相当な額に…？ ―

トラックが横付けできない

左の写真を見るとどこかの工場か流通センターのように見えませんか？

ここは、トラックから荷を積み下ろしする場所ですが、大きな欠点があるのです。

それは、トラックを横付けすることができない設計、つまり、トラックの荷台の後ろしか、つけることができないのです。

荷台が横開き（ウイング型）のトラックは、使い勝手が悪くなっています。

この欠陥について、都職員は苦笑いしながら認めました。

数えきれない空調設備が…

水産卸施設は、施設全体が、冷蔵庫になっているので、空調が大変です。

下の写真のように、天井には、空調設備が短い間隔で設置されていますが、この巨大な冷蔵庫を一定の温度で保つために、どれだけの維持費がかかるのか、心配になります。

この経費を含めた市場にかかる整備・運営費は、市場業者が負担しなければならないにもかかわらず、都は、業者負担を明らかにしていません。

「黒字営業は難しそうだ」「負担増を価格に転嫁できない」など、市場関係者の不安はつのるばかりです。

都は、市場関係者への丁寧な説明と業者からの意見をしっかり受け止めるべきです。

そして、安全面でも運営面でも、業者が営業できないと思える市場なら、豊洲には移転できないという判断をすべきです。

数えきれないほど「天井に張り付いてある箱」が空調設備。中にある４つの黒丸がファンによる排出口です。

ブログもごらんください　志村たかよしワールド　検索